

第61回倉吉文芸表彰式

平成29年2月18日(土)

倉吉文芸表彰式の開催にあたりご挨拶申し上げます。
受賞されました皆さんおめでとうございます。

今日は24節季の一つの「雨水」(雪から雨に変わる:春)ということです。しかし、今年に入ってから2度にわたる豪雪で生活にも大きな影響があったのではないのでしょうか。また、昨年10月21日に発生した地震で屋根などの心配もあったと思います。あらためて、被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、復旧・復興元年として、私たち議員も行政と一緒に全力を注ぐ覚悟です。

倉吉文芸、倉吉市誕生の翌年1954年にはじまり、今回が61回目となります。途中2年間の休憩をはさみ、編集委員会の形となってから11年目となります。今回、作品は、詩、俳句、短歌、川柳など1240点の応募があったと聞いています。選考、編集などにあたられた関係者の皆様大変お世話になりました。

さて、県立美術館のことが話題となっていますが、美術や音楽などに比べると文芸、言語によって表現される芸術である文芸は取っつきにくいと思われる方が多いかもしれません。

しかし、近年、文芸に対する注目・関心が高まっているのではないかと思います。例えば、今年もつい最近テレビなどで紹介された、第一生命が行っている サラリーマン川柳であるとか、東洋大学が小学生から大学生を対象に募集している短歌コンテストはどちらも50000句をこえる参加があると聞いています。また、倉吉市が全国に発信した山上憶良短歌賞も応募6千首超えたということです。 文芸、言語は人にとって身近で、人の心を豊かにするもので、もっともっと注目されることを期待するところです。倉吉文芸の作品に関しては、この後、各部門の講評もあることと思いますので、楽しみにしています。

終わりになりますが、人間で言えば還暦を超え、ますます元気に70年・80年と発展していくこと、受賞されました皆様をはじめ多くの方が来年以降も応募していただくことを祈念して、お祝いの言葉といたします。